館報たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館
広報委員会
印刷所
竜共印刷株式会社
上郷町黒田竜(22)5353

建設には絶対反対

二、五〇〇余名の署名

下流に泣く住民

▽……竜丘の中心であり、生活を共にして来た新川が「企業汚染」されるに及んで新……△
▽……川を利用する地域住民に少なからずのショックを与えている。新川は、飲料水、……△
▽……農業用水と生活の幅広い分野の河川だけに、アノックス対策委員会、農協関係者……△
▽……らはいち早く建設には絶対反対、二五〇〇余名の署名と共に、関係機関に反対陳……△
▽……情を興している。建設の概要と関係機関の声を追ってみた。……△

新川上流、上殿岡に建設が予定されているアノックス工業は、オフセット印刷用原版加工工場で、水田約四千平方米を転用、アルミ版を硫酸、塩酸等で被覆加工して写真原版をつくる工場である。

問題になっているのは排水処理施設及び方法だが法的にはカセイソーダーで中和すれば、水質汚濁防止法には抵触しないとしているが、住民サイドにして見れば相手が、化学薬品（硫酸、塩酸、ナトリウム、アルミ、バリューム塩等）だけに化学反応を恐れたり、完全に除去できるのか、又浄化槽の不備、管理等不安はつのる。

新川は時又簡易水道の源として時又と長野原全域、駄科の一部、そして竜丘小学校、保育園、プール等、家庭から学校まで大切な飲料水であり、新川の伏流水（地下の流れ）を利用するだけに直接関係が大きい、又農業水利として広く利用する井水、養鯉関係者にとっても不安は少なくない、何よりも新川をこれ以上汚したくない、新川を公害から護り竜丘の風土を保って行きたいとしている。

竜丘衛生組合では昨年来から数回の会合を重ねる中で、県、市、保健所等へ陳情を重ね「明るい自活は明るい健康」からのたてまえとして建設には絶対反対、自然確保、公害防止、河川保護を重点に法的には解決できない問題として関係機関に実情を良く調査してほしいと強くアピールしている。

農協関係者らも独自に反対運動を重ね建設にはあくまで反対、地区民が理解するまで建設してほしくない、企業と地元との話し合いの場が是非必要であり、市当局の行政的指導を望んでいる。

市農業委員会では今の段階では「やむを得ない」と申請を認可、申請者が「河川を汚染しない、浄化槽をつくり、イオン交換樹脂方式をとり浄化する」又半年前より法的基準を上回る処理方法で実験調査して来ておる故に認可しない訳にはいかないとしている。しかし下流にはこの伏流水を飲んでいる住民が多勢ある事をよく認識して汚水を絶対に流してはこまると完全な管理を条件としている。最終的には県知事の認可と言う事で反対署名二五〇〇余名の陳情と共に飲料水である旨の意見書を付けて県へ出す事にしている。

市会、社会委員会では、企業と地元との話し合いを見て結論を出す事とし地元の納得のいく線で、むり押しをしないと、継続審議としている。

市当局は「企業は法的以上の基準をつけて汚染された水は絶対に流さないとしている」「地元はそれでも尚不安」と、両者の言い分の中で、やや困惑気味、市がどのような斡旋、裁定を下すのか成行が注目される。

新川を公害から守る運動がスタートしたが、家庭排水、畜産公害等まだまだ環境浄化の住民の意識は低い、アノックスの問題にしかり住民との積極的な話し合いの場が持たれる事が急務であろう、中央道路面排水の問題等、これからますます公害にあえぐであろう下流竜丘住民は、身の廻りの環境等住民のいのちと暮しを守る運動を発展させなくてはならない。

市民セミナーテーマきまる

『水資源と環境浄化』

竜丘市民セミナー準備委員会が八月三十日午後八時より市役所支所に於て関係役員が参加し開かれた。

市民セミナーは、竜丘地区にある課題を掘り起し、研究・学習を日常的に行ない、それらを住民の手で解決し前進していこうという主旨。会議は市より山岸企画室長が参加、地区より公民館役員・自治会・各区長・農協・商工会・衛生組合・婦人会・老人会・睦会・青年会・農協婦・PTA・保育園保護者会の役員約二十名が参加し地域課題と今後の進め方について話し合いが行なわれ、地域課題では新川汚染について、時又の再開発について、農地の蚕食について学校問題などが出されたが竜丘としては『竜丘の水資源と環境浄化』について取り組むことが決定された。新川上流には、日本アノックスや平栗製螺などの工場進出による汚染の恐れがあり、大井川には中央道インターからの排水が入ること、天竜川・一貫水路の汚染などの研究・学習又、飲料水の問題などが取り組まれる見込。

各団体でセミナーについて検討を行い今後の予定としては、十月中に地区内にセミナーの主旨を知らせ参加者を募集し、十月上旬に運営委員会を構成しスタートすることとなった。尚このセミナーは主権在民の立場から市民が主権者であり、自分達の地域は自分達の手で守り育てること、市民の自発的発想を生かした街づくり、地域の課題を積極的に学習し、住民一人一人が飯田を考えることとなっている。

青年の主張

雨もり

ヒューヒューと強い風が吹いてきた。風にあおられてか雨も屋根をたたく音を強く響かせてきた。台風14号のしわざ。

こんな中青年会があり予定の時間より少し早く図書館へ出かけた。図書館へ入ってみると心配していたようにあちこちに雨もりが激しく、図書室と言わず畳の上と言わず、ぬらしていた。あわてて、バケツ、洗面器などをあてがった。しかし雨もりはそれでも床、畳をぬらした。このまま放置していれば、床、畳がくさり、また図書室の本がボロボロになってしまう。早く雨もりを修理しなくては、雨が降るたびにこう思うのです。

しかし私たちは、雨が降らないでいれば、このようなことを忘れてしまいがちです。雨の日が続けば続くほど、回数を重ねれば重ねるほど激しさを増します。雨もりの穴はますます大きくなっていきます。これも事実です。雨が降るたびにこんなことはわかっていても、雨が降らないでいれば忘れてしまいがちです。

私たちを取り巻いている社会もう。他の物価、国鉄、私鉄運賃など矛盾がうずまいている社会だと思います。石油パニックから始まり、ガソリンの値上げ、電気料金の値上げなど新聞紙上を騒がせた時期がありました。あの時期は、「こんなばかな、でたらめなこと」とよく聞いだものです。

しかし、それも一ケ月、二ケ月半年、一年とたてば、再度値上げの無い限り、今の体制に流されて何も聞がなくなってしまうでしょう。

やはり、私たちは、雨もりの原因は何であるかを正しくとらえて改めていかなくてはならないと思います。そして私たち、若者が今何をやらなければならないか、真剣に考えてみたいと思います。

（簡井保治）

学習する事の大切さ

モデル婦人学級

第一四二号に、生徒募集を掲載したモデル婦人学級は去る七月十日の第一回目の開校以来、婦人達の自主的な参加により着々と学習が進められている。

このモデル婦人学級とは、十六の公民館の主事会が受けもつ婦人部、成人部、青年部の担当の中で特に婦人部では、「婦人学習のあり方を方向付けたい」という事から始められたものである。昨年竜丘を含む三地区を対照に婦人部のアンケート調査を基に三地区の中でアンケートの集約がなされた竜丘地区が、モデル婦人学級に指定された。

学習形態は、今年度は婦人部の作成した学習計画に添い、講議↓共同討議↓まとめ、講議という繰り返しで、その間には実習、見学なども計画され、後半には自分達で学習計画を実践していこうというものである。

学級生は、アンケートの対照となった長野原の婦人達を中心に年令も二十代～六十代と巾広く、現在長野原三十一名、駄科二名の計三十三名で六～七人のグループ形式の学習を行なっている。

第一回の婦人学級では、信大助教授の玉井袈裟夫先生の講議があり、「日常の生活の中で、実行出来ない事の理由付けは出来ても、何故出来ないのかについて深く考える習慣が一般にはない。これからの学習の基本をこの点に置いて学習する事が大切だ」という話しがあり、それに基づいた宿題として日常生活の中で〃こうしたい〃との欲望が出た場合、その欲望を押えてどう思ったか。又、家族関係を和やかにする為、夫婦・嫁姑の間で肩をたたいてどう思うか。この二点が出され、次回までに実行してみることとなった。

第二回目は八月二十六日に開かれ、前回の宿題を実行した結果について各班ごと共同討議が行なわれた。全体会の中では、まとめとして欲望阻害の原因についてはテレビにあるのではないかという点が多くの意見として集約された外数多くの実践結果が発表された。

二回のモデル婦人学級を通して婦人達から〃学習する事の大切さ〃を二回の学習から感じた〃との声も聞かれ、九月末には玉井先生の講議、さらに十月には研修旅行が計画されている中で、今後のモデル婦人学習が益々期待される。

むかしを探る

第一回史跡めぐり

第一回地区内の史跡めぐりが、八月二十五日に上川路地区にて公民館の呼びかけにより行なわれた。

この史跡めぐりは、文化委員会と体育委員会の合同の行事。最近のレジャーは地区外に興味や関心を持っているが、地区内のことはほとんど知らないでいる今日、あらためて地区内を知ることと自分の足を使って史跡めぐりをすることにより体力づくりを目的に行なわれた。

当日は朝七時に開善寺の境内に小学生を含め約三十名程が集合し開善寺の歴史、国の重要文化財の山門。国の重要美術品に指定されている鐘楼。復元された巻空庭園などの説明を橋本玄蓮住職さんから聞いた後、開善寺の裏山を越えバイパスを通り、馬背塚古墳へ、この塚は前方部、後方部両方に石室があり、規模は県下一で高さ三メートル以上あり懐中電灯を頼りに見学、中田美稔さんの説明をうけながら、御猿堂古墳へ行き重要文化財指定の四仏四獣鏡の出土のことなど聞いた後、最後に考古資料館へ行き展示出土品を見学し約二時間程で終了し流れ解散をした。

参加者からは「このつぎも是非出席したい」との声が出ていたが公民館では引きつづき史跡めぐりを本年度中に二・三回実施する予定である。

公民館役員

前号未掲載分

【企画委員会】◎木下一　○前沢潤一郎　笹井保治　今村千賀子　大野栄子　林省三　下平宣嗣　熊谷正一　小林晃　松原薫人　代田富二　中島寿文　桐生蔵雄　牧内正七　窪田忠夫　（◎長、○副）

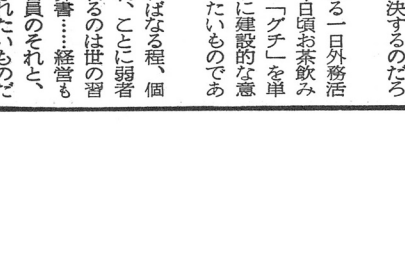
十月上旬分譲

中原団地完成

このほど上川路と桐林境のバイパス沿、中原地籍に宅地分譲団地が完成した。この団地は長野県企業局が、中原団地造成工事（昭和四十八年度）として平和工業に請負わせ完成させたものである。

中原地籍は最近まで桑畑で、丘陵地の為に耕運機や自動車などほとんど使用出来ず、農地関係者らは昭和四十四年頃、「中原農地整理組合」を結成、間もなく国道バイパスの開通を迎え、国鉄飯田線の久米川鉄橋のカサ上げ工事に、一部分の土を削り売却。交通の便は良くなったが、蔬値をはじめ農産物の不安定な価格、農業後継者の不足などの諸要因から農業に先行き不安を持ち、組合結成当初の耕地整理の目的は達することが出来ず、農地を売却する方針に変更工場誘置が検討され、各方面へ働きかけたが進展がなく、このほど県企業局へ宅地分譲用地として売り渡された。尚企業局の買収の過程は、基県議と地元企業とが絡み進行された。市役所と地方事務所に工事の概要や分譲の予定など問い合わせた所、詳細はわからないとの返事。このほど完成したのは二十六区画、一区画八十坪から百坪。上水道は同地籍内をボーリングして給水、下水、廃水は沈澱槽を造り白井川の支流へ流される。企業局では売り出し募集を市の管理課を通して九月末から十月上旬に行うとのことである。

／完成した中原団地／



随想リレー〔98回〕

奉仕団の歩み

時又　今村ふき

昭和三十六年六月二十六日夜、降り続く雨の中を支所に集って分団の総会を開きました。四月から六月まで委員長を受けかねて居た私も責任を感じて、雨の中を集ってもらい、赤十字奉仕団の任務に付いて話し合いました。

団員は何時どんな事故で召集を受けるかわかりませんから、其の時は救援に全力を尽して頂き度いとお願いしたわけでした。ところが翌二十七日午後三時、災害対策本部から、消防への炊出し七十人分するよう指示があり、昨夜の今日早速こんな大変な事が起きると夢にも思いませんので、本当に驚きました。近くの団員が集って炊出しにかかりました。ところが夕方から急に増水して、流失する家が沢山出て罹災者三百人分のおにぎりを夜中まで作りました。それから一週間は炊出しに防疫に全力を尽しました。

此の災害を体験して感じた事は日頃訓練をかさねて何事が起きても動じない事と、設備を整える事を痛感致しました。今さら私が申すまでもありませんが、奉仕団は自主団体ではなく、赤十字社の中の時間と労力を社会の為に奉仕すると云う団体で、会費を集めて運営する団体でないので、炊出し、其の他の設備を整えると云っても大変で、各家へ薬品の斡旋をし手数料で得たわずかなお金と、社会福祉協議会から頂く補助金を活動費と設備費に充てて来ました。此の十数年の間に設備も整い、百五十人分の炊出しも一時間半もあれば充分出来ますし、交通事故、災害、其の他で怪我をされた方の医者へ行くまでの応急処置の出来る救急員の資格者も地区に十五人ほど出来て〃備えあれば憂いなし〃の構えとなりました。

此の外に、此の地区には「丘の灯会」と云う点訳の奉仕班があり盲人の方のために日夜点字を打ち続けて居て下さる三人の方があります。先日上田の点字図書館へ行きました。橋本静子さん、今村きみさん、今村ますみさんの点訳書が部厚く棚につまれているのを見て、涙のにじむ思いがしました。

自分の事は忘れて、不幸な人々の為に陰の力となって奉仕すると云うのが奉仕団の精神です。一人でも多くの方が自主入団されて、不幸な人々の施設の奉仕、其の他の社会奉仕に参加され事を願ってやみません。此の地区の奉仕団は、他の地区に勝るとお褒めを頂いて鼻を高くして居ります。永く団員として務めさせて頂きましたので、奉仕団についての報告をさせていただきました。

ヤブ蚊

世界的な食糧不足が予想され、人口問題がとりざたされている現在、食糧産業とも言われる農業・農民の将来は楽観できるだろうか。竜丘では、第二次構造改善事業による基盤整備が一部終了し、近代的な稚蚕飼育所も完成したが…低米価決定。繭価は昨年の三割安。生産意欲を無くした声が農家のあちこちから聞こえる。

専業農家は十四%、兼業化が進み特に第二種兼業（農業収入より農業外収入の多い兼業）が増えている。又専業農家の後継者・若者が他産業へ流れる。「勤めた方がゼニになる」が本音ではないだろうか。

こうした厳しい農業情勢の中で三月一日飯田市農協がスタートした。四月十五日に役職員の配置、五月十二日に第一回総代会が行なわれたが、二ケ月程は賃金調整、春闘、組織作りと混乱状態。六月頃より平静な活動がされている様子だが……。

会合や運営面では下久堅まで足を運ばなければならないわずらわしさがある。それに加え職員の本所出向により減少した人員で今まで以上の事業をしなければならない、誠にご苦労様です。「おばさんの出してくれたお茶がなつかしい」と言う組合員が多い。

竜丘に一名いた生活指導員は、飯田市農協にたった二名、活動の停滞をなげく農協婦人部。

「農協は商社と同じだ」と言われない組合員の為の農協へと成長を期するのは誰しもの願いである。

組合員全員での総会が、七名代表の総代会になった事は、運営面ではかなりのメリットがあるだろう、しかし組合員の意見が反映されない問題はどう解決するのだろうか。

毎月五日に行われる一日外務活動を多いに利用し、日頃お茶飲み話しに出る農協への「グチ」を単なるグチに終らせずに建設的な意見として反映させたいものである。

組織が大きくなればなる程、個々の意志が無視され、ことに弱者（兼業）が無視されるのは世の習い。農協の損益計算書……経営も大切であるが、組合員のそれと、つぶやきを大切にされたいものだ

竜丘の歴史と未来

文化祭大綱きまる

竜丘には文化、産業、風俗に特色ある歴史がある。その歴史に培れた文化、産業活動が現在活発に展開されている。公民館ではこれら歴史や現在の活動を系統的、具体的に今年の文化祭に発表してもらおうと、自治会、老人学園、婦人会、農協婦、青年会、睦会、未亡人会、農協、竜丘商工会、史学会、小学校、地区交通安全協会等に参加協力を呼びかけ、これが代表者により第一回の文化祭実行委員会が八月二十七日行なわれ、今年の文化祭の大綱が決った。

実行委員長に公民館長、副委員長に自治協議会長、小学校長、企画委員会副委員長がきまり、その下に総務、企画、展示、行事、蒐集の各担当部の構成も決まり、さらに細かな計画が検討されることになる。

今年は展示テーマを〔竜丘の歴史と未来〕と設定し、各団体はそれに合せた展示をすることが確認され、活動又は研究の実績が発表されるとのことです。

予定される展示は、竜丘の歴史展（古い写真、民俗資料、スライド）竜丘の知名士展、婦人会、青年会、睦会、農協婦による活動作品展、老人学園作品及び所蔵展、短歌、ペン習字、生花、水石、盆栽展、産業展（農協、商工会、企業）錦鯉展示即売会等が挙げられている。この他の行事として、小学生音楽発表、詩吟、民踊等の芸能発表会、少年剣道大会、文化祭協賛スポーツ大会（種目未定）趣味娯楽大会（囲碁、将棋、麻雀）喫茶、バザー、なんでも市等が予定され、文化祭に花を添える。

この文化祭に必要な経費は、十二万余円で、公民館地区費で賄なわれることになります。

『竜丘の歴史』の中で展示される古い写真がありましたら、お借りをしたいと公民館では話している（分館公民館委員又は公民館事務局までご連絡下さい）

昨年休んだ文化祭も多くの参加団体の協力により盛大に開催されることが期待される。

早朝のグランドに猛打爆発

城陸に栄冠

去る六月三十日に開幕した竜丘地区早起野球リーグの開幕となった。

試合方法はリーグ戦とし、竜丘小学校校庭の北側A、南側Bの二面をつかい、朝五時三十分開始、七時終了ということで行なわれた審判は各チームより二名ずつ出し運営委員会で決定したルール、リーグ規約にもとずいて試合をする各チームの自主的運営で行なわれた。

猛打爆発、エラー、珍プレーの続出、白熱の試合等、若い人からおやじさんまで楽しみながら健康造りと親睦をはかることができた一〇チームの参加をみて第一回竜丘地区早起野球リーグの開幕となった。

一日をもって全日程終了し、城陸チームが優勝した。

ここ二、三年各地で早起野球がさかんに行なわれているが、五月ごろ竜丘でもはじめようではないかという声がもちあがり、六月に入って公民館の体育委員を中心にして検討し参加を呼びかけた。

出場資格は竜丘地区内に居住する一般社会人ということで、各常会、地区内にある会社関係の事業所へ参加の呼びかけをしたところ

城陸　駄科の下平の野球が飯より好きな人達のチーム、練習も熱心で強い。

久保田　桐林久保田の常会チーム農業のおじさんががんばっている。

ASAHI　アサヒブレコンのチーム、社長自ら熱心にはりきっている。

スラッカーズ　長野原、駄科の若い人達のチーム、大きいのを打つが守備がもう一歩。

桐林久保尻の常会チーム、往年の選手と若手がうまく調和し、頑張った。

竜丘同好会　飯田の早起野球に参加しているチーム、強いが不戦敗が惜しい。

桐林愛球会　桐林中央常会のチーム、野球が好きでうまい人が多い

建設会　竜丘土建産業組合の仲間、特にずばぬけてうまい人はいないが頑張っている。

来年も続けていくとのことです。

チーム紹介

安城　桐林安城の常会チーム、甲子園出場経験者を中心にがんばっている。

市役所　支役所へ勤めている人達のチーム、曲った腰を伸ばそうと参加。

民俗資料の心

紙を（漉）すく

一時期、ヘドロ公害として世間の話題に上った製紙業。今でこそ大企業の独占的ともいえる大量生産に依り、我々は何の苦もなく日常生活の中でこれまた大量消費している紙。かつては当地区にも一枚一枚丹念に紙をすく人々の姿があった。

民俗資料館で古びた紙をすく道具を手にして、昔下伊那地方の花形産業であった製紙業に興味を引かれるのである。

今から二五〇年程前、美濃国恵那郡から来た稲垣幸八氏に依り、晒紙の製法が当地に伝えられ、それが良質だった事から飯田元結（昔女性が髪を結うのに用いた）の名声は次第に全国的に広まっていった。下伊那地方の製紙業は、明治二十年頃が最盛期で、農家の多くが副業としてこれに携わっていた。ところが明治四十年に至り元結が機械抄原紙を採用するようになり、晒紙原紙は競争できず当時盛んになり始めた養蚕業へと転向していった。（大正十五年飯田に原紙工場完成）しかし一部の業者は元結原紙から傘紙へ、更に障子紙へとその中心を移し変えて

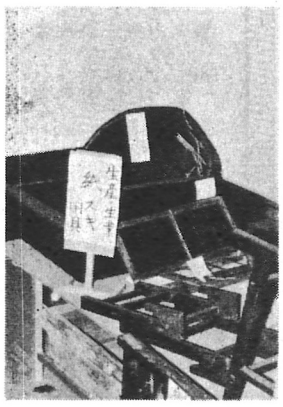
これら楮（かぞ又はこうぞ）を原料とする紙は次のような工程で作り出される。①楮を一m位に切る②かぞむき（楮を釜に入れ、三時間位煮る）③かぞたくり（白かぞを作る…皮をいったん冷して表皮をカミソリで取る）④白かぞを一昼夜冷かす⑤煮沸（白かぞをソーダ灰で三十分位煮る）⑥ちりとり（煮沸した白かぞをザルに入れ水の中でごみを取る）⑦そをたたき板の上に置き棒でたたき繊維を分解する）⑧すく（すき舟の中でとろろと云う草の根をたいて出る粘液を混ぜ「こて」という水の冷たさは厳しく、傍に湯の入った桶を置き、手を温めてはつらい仕事に耐えたという。特に紙たたきの作業が一番つらかったという。

寒空に響きわたる紙うち板（たたき板）をたたく音が聞こえ始めると、それはもう、正月も間近いことを告げていた。

【浜島美博記】

原料となる楮も自給よりは中馬や舟でその多くが運び込まれた朝まだ明けやらぬうちから夜遅くまで一日働いておよそ三百枚程の紙をすいたが、冬期間の作業の為、紙すきに欠く事のできない重要な作業として行なうものが多かった。

／写真は紙すき機／



早起野球リーグ成績表

優勝　城陸クラブチーム　　2位　久保尻クラブチーム　　3位　桐林愛球会チーム

（○勝　×敗　△引き分け　□不戦勝　■不戦敗）

（審判欠席1名につき0.5点をペナルティとし負点とする）

順位		城陸クラブ	久保尻クラブ	桐林愛球会	竜丘野球同好会	安城クラブ	久保田チーム	スラッカーズ	建設AHI	A市役所	S役	H竜丘	I丘	勝	敗	引き分け	ペナルティ
1	城陸クラブ	＼	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	8	1	2	0.5
2	久保尻クラブ	×	＼	×	□	○	○	○	○	○	○	○	○	7	2	2	1.0
3	桐林愛球会	×	○	＼	□	×	○	○	○	○	○	○	○	7	2	4	0.5
4	竜丘野球同好会	○	■	■	＼	○	○	○	○	○	○	○	○	5	4	5	1.0
5	安城クラブ	×	×	○	×	＼	○	×	○	○	○	○	○	3	6	6	
6	久保田チーム	×	×	×	×	×	＼	○	△	○	○	○	○	3	6	7	
7	スラッカーズ	×	×	×	×	○	×	＼	×	○	○	○	○	2	5	8	
8	建設AHI	×	×	×	×	△	○	○	＼	×	○	○	△	1	6	9	
9	A市役所	×	×	×	×	×	×	×	×	＼	△	△	＼	0	8	9	

ミニ国体　竜丘チーム大活躍

新調ユニフォーム他を圧倒

県民総スポーツ、スポーツ底辺の拡大、五十三年国体に向けて意識高揚など、いろいろ意味を含めたミニ国体が昨年に引き続き、八月四日の飯田市大会を皮切りに開始された、竜丘地区からは、野球排球、卓球、陸上に多くの選手が参加出場した。

この内で排球チームは五月にチーム編成以来、初めは月二回、七月に入ってからは週三回の練習を行なった。その成果として竜峡中で行なわれたAブロックで、第一戦　対丸山を二一〇、第二戦　対伊賀良を二一〇と連破し、緑ケ丘中で行なわれた決勝戦では、強豪羽場を接戦の末、二一一で破り見事優勝した。

今年はユニフォームが公民館地区費により新調され、コバルトブルーの地に白く竜丘と浮び上がらせたユニフォームが縦横に活躍する姿は断然他チームを圧倒していた。

野球は二年連続優勝の丸山と対戦し健闘むなしく二一〇で惜敗。

卓球は全クラスに出場、桐林の岡島勝さんが二十代男子の部で優勝したほか、七名が二、三位に名を連ね、卓球竜丘の名を高めた。

陸上は七名参加し高校男子の部で駄科の近藤剛彦さんが十二秒六で、三十才男子の部で時又の林南さんが、十二秒二で共に優勝、他に四名が入賞し気を吐いた。

又このあと九月八日には飯伊大会が、飯田、鼎、上郷の三地区五会場で行なわれ、飯田市代表として出場した排球チームは、一回戦上郷を二一〇　二回戦大鹿村を二一〇と連破し、第三回戦前年優勝の松川町と対戦したが健闘及ばず〇一二で惜敗した。

卓球はこの大会より団体戦となり、桐林の岡島勝さんも飯田市チームの一員として活躍し一回戦で阿智村に勝ったものの、二回戦で今年優勝の高森町に六一三で敗れた。陸上の林さん、近藤剛彦さんは共に一位となり県大会へ出場する。お二人の健闘を期待したい。

／優勝した排球チーム／

生活改善アンケート　あなたは！

この春竜丘地区生活改善推進委員会から、各戸に配布されていた生活改善についての意向調査の集計が公民館事務局の中で集約されていたが先般終了した。結果は地域には公表されていないが、生活改善についての住民意識、現実の問題、これからの活動、推進委員会と組織の問題等、課題は多いがここでは「結婚式と披露宴」についての統計を拾ってみた。

一、会場について

公民館か公共施設　六一・六
料亭がよい　二九・六
自宅がよい　二・〇
その他（無回答）　六・八

二、祝儀について

会員制がよい　三二・九
市・地区で統一　三九・八
自由でよい　二三・五
その他（無回答）　三・八

三、引出物について

記念品籠盛つけない　一七・一
記念品のみつける　六六・九
籠盛のみつける　八・一
その他（無回答）　七・九

四、組合の婦人の招待

招待しない　一九・〇
集会の折披露する　五三・三
祝儀当日招待する　一〇・七
翌日招待する　一〇・七
その他（無回答）　六・三

五、お色直しについて

やらない　二一・七
訪問着か洋服　六〇・〇
従来通り　一〇・九
その他（無回答）　七・四

六、貸衣裳について

天竜社等で格安に　五七・七
美容院、貸衣裳屋で三〇・九
その他（無回答）　一一・四

あの人この人

（四月～八月）

◎伸びよ健やかに

（氏名）（部落）（父名）

一ノ瀬広志　駄科　清
下平　君敏　桐林　君雄
関島　陽子　駄科　健治
中島　健　時又　正昭
桜井　剛　駄科　和春
河井　智洋　時又　洋治
坂井恵美子　時又　利光
小林　真弓　桐林　斉
吉川　徳典　駄科　睦男
伊藤　弘道　駄科　道夫
関島　貴文　桐林　文次
牧島　静恵　駄科　計雄
中島　康夫　桐林　勝
菊本　和美　長野原　繁治
原　隆洋　桐林　俊一
今村　章子　時又　武夫
倉沢恵美子　駄科　久雄
村松　容子　時又　隆明
後藤　澄子　駄科　憲良
斎藤　淳志　時又　義登
下平　幸枝　駄科　宗三
玉置　信治　長野原　照男
井野口　毅　時又　一男
塩沢　弘子　時又　修二
多田　弥吉　駄科　晴信

◎永遠に幸あれ

〔原小木曽和子〕進　下条村へ
〔木下北沢　昌治　伯子〕駄科　豊丘村より
〔正木原　満智子〕耀一　徳島県へ
時又
〔杉本市瀬　勝吉　博子〕時又　喬木村より
〔小林小林　静子〕融　三重県へ　長野原へ

鉛筆かついで

青少年の剣道指導に励む

桐林　佐々木誠一さん

今回は青少協剣道クラブの指導をしておられる桐林の佐々木誠一さんを、クラブ活動中の小学校講堂にお尋ねしました。

現在クラブ員の人数は五年生と六年生四十三名、中学生十三名でそのうち女性が五・六年各三名、週一日の練習に励んでいます。中学生は火曜日の夜、小学生は土曜と日曜の二日に分けて五年生を、都合週二日受け持たれて、指導に尽くされておられます

問「目標はどんなことでしょう」

答「青少年の健全育成ということが基本ですから、心身の鍛練、根性や礼儀を身につけることでしょう。欲目かも知れないがクラブ員は礼儀が良いですね。」

問「彼等に何を望まれますか。」

答「立派な社会人になって貰うことですね。」

問「ところで、いつ頃から剣道をはじめられたんですか？」

答「小学校五年の時からです。兄の担任の先生が剣道に力を入れられ、兄と二諸にやるようになりまして、父もやっておりましてね、その後、国民学校で五年間やりました。……その後、小学校のグランドへ農協で野球に来た時に、剣道クラブの練習を見て、懐しく竹刀を持ったのが、現在に至るきっかけです。その時、駐在の太田さんが指導されていたんですが、当時川路のホステス殺しの捜査が忙しく、練習をみきれないから是非に、と頼まれたのが剣道との再会となった」そうです。

「昭和三十九年に発足したクラブも今年で十一年、ここから巣立った人も多勢になりました。現在では初段に近い腕のクラブ員もおりうかつかしとると打ち込まれる程です。」と楽しそう……

……多勢のクラブ員に、もっと多くの指導者が居れば、きめこまかな指導ができるのに、と一般の剣道クラブの発足にも力を入れて居られます。

この秋十月十三日の飯伊剣道大会が当小学校講堂で開催が決まり小学生から中、高一般まで、この春の上郷大会の八百人を上廻る千人近くの出場が予定され、模範試合もあり、「その時には地区の皆さんも、当クラブ員の活躍を見て戴き、いろいろと御協力もお願いしたい。」とおだやかながら力のこもった話しぶり。当記者、質問の間に間に剣道で鍛えられた、氏の人となりが深くうかがえる気が致しました。

●御冥福を祈る

（氏名）（部落）（性）（年令）

今村　馬吉　時又　男　八三
今村とみえ　長野原　女　九一
笹岡　司郎　上川路　男　七六
山田　伍一　時又　男　四九
下平ひよえ　駄科　女　八四
伊藤宇しえ　時又　女　八七
下平　周一　桐林　男　七五
中島　敏治　時又　男　七四
楯　一男　時又　男　七九
窪田　邦男　上川路　男　四六
〔下平木下　広　桐林　悦子　北方より〕
〔水本宮下さつみ　喜作　根羽村より　長野原〕
〔市瀬中村　俊雄　道子　駄科　東京より〕
〔石原塚平多津子　龍彦　根羽村へ　上川路〕

編集後記

▼バトンタッチされて最初の館報を地区の皆さんへお届けします。遅れ遅れの館報で恐縮ですが連夜四苦八苦で作りました、若返りの中で、ここ一、二年館報の質も落ちようと言うもの、何よりも経験不足が館報発行のブレーキ、そして私達を取り巻く情勢が厳しく、取材、結集が思うにまかせず……

▼新しい広報メンバー　委員長杉本勝吉　副委員長長沼龍・坂井利光　委員　大見新一・長谷部進・山田勝人・伊原聡・熊谷伊久夫・熊谷和美・浜島美博・森義宏・岡村千恵子・久保田久子・原恭子・筒井保治

頑張りますのでよろしく